

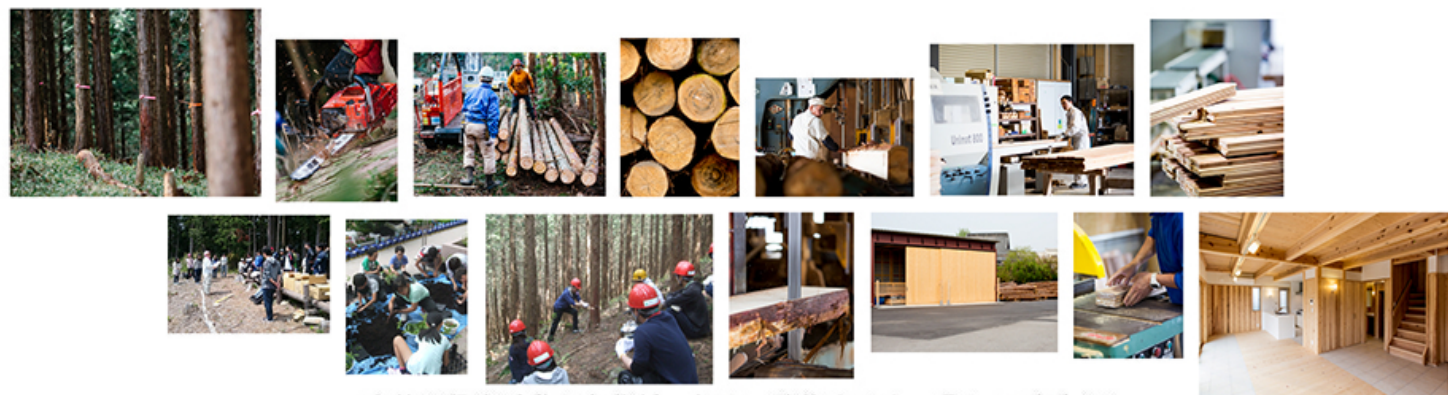
# maison de champignon

自然と共に暮らす

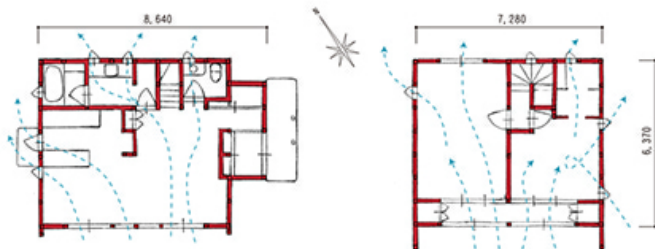
生物多様性の大自然の中で小さな群生を持つ菌は、形も愛らしく普通に家として度々登場しています。この戸建住宅プロジェクトは、他とは異なるデザイン性を強調する事よりも、地域性、社会性、そして自然界との係わりを一つの住宅に表現しています。愛知県における自然回帰の森、奥山づくりを「天使の森」プロジェクトとして2012年に立ち上げ、下層の産業林の間伐材を100%使用して構築をしています。下図に掲げた暮らしの考え方を設計主眼とし、配置、建築設計、材料選定を行い、人も自然も含めた環境配慮を施した住宅です。愛知県の森林保有面積は60%程ですが植生自然度数はほぼ0%、産業林材利用率は全国の都道府県の中でも43位と、自然の保全そして森林との循環型林材利用率の低い地域であります。

このような中、自然林づくりの林相転換を図りながら、8割を超える林地残材を積極的に活用してゆくためにこの住宅プロジェクトは始まりました。南面開放のパッシブソーラー型建築手法で、low-Eガラス使用、蓄熱タイルによる温度差を利用した自然対流、1階と2階の熱循環システム等を含み入れ、建築のローコスト化を進める中、健康配慮、メンテナンスのフリー化を計っています。構造、内外装含め、接着剤使用の集成材を使わずムク材を使用し、極力接着剤を用いない工法を用いるほか、塗装も最小限にして必要な所は植物性塗料にしています。また庭には家庭菜園も配置し、安全で安心な野菜作りに携わったり、植物を植え育てたりする中で、自然との協調性も高められる設計になっています。

## ◆ 設計で大切にしている8つのこと ◆



### 森林の保全活動から伐採・加工・建築までを一貫してデザイン



1階 心地よい自然の風を室内に取り込めるように、それぞれの地域の風を考え、大きさや右左の開きを変えています。

